

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 益田清風高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年1月26日(金) 13:30~15:30
- 3 開催場所 益田清風高等学校 会議室
開催にあたり、委員による授業参観(ビジネス情報科課題研究発表会)を実施した。
- 4 参加者

会長	森本 翔太郎	馬瀬建設株式会社 専務取締役
委員	皆越 眞佐代	NPO飛騨小坂200滝代表者 (欠席)
	向野 優子	NPOみらいろ理事長
	河合 正博	下呂市観光商工部長
	朽本 達治	朽本農園
	山下 久美子	下呂看護専門学校長
	滝 景子	水明館 若女将
	長尾 伴文	ぎふ夢教育応援隊
	前田 芳隆	前小坂中学校長
	今井 富樹	育友会長
学校側	佐藤 尚史	校長
	塚本 和幸	教頭
	井田 誠	教務主任
	打保 圭史	生徒指導主事
	上田 界堂	進路指導主事

5 会議の概要(協議事項)

(1) 意見交流(ビジネス情報科の課題研究発表会や今年度の取組について)

意見1: 発表を見て、そのまま社会人として即戦力になれると感じた。聴く姿勢も行儀が良かった。目的が定まらないまま普通科に入った生徒を、レベルアップさせることが大事である。

意見2: 発表者のPowerPointの使い方が上手だった。データを分析して反省点を見つけ、次の対応につなげていることに感心した。地元就職の割合が低いことが課題である。

意見3: プロのような分析をしていて、素晴らしい発表だった。これを中学生や地域に向けて発信してほしい。中学では地域と語る会を実施しているが、プレゼンテーションは中学生の方が上手い。発表を途中で止めて、聴衆とやり取りをしながら進めている。中学では、いかに地域の方と心地よい体験を積み重ねられるかを課題としている。

意見4: 公開授業週間に、地域の人が授業参観することは可能か。

⇒可能である。学校HPを通して知らせている。

意見5：先日、総合学科学習成果発表会も参観したが、共通しているのは、学びの原点は地域にあるということ。総合学科にも上級学校で学ぶ意欲をもった生徒がいるので、次へのステップにつなぐことが重要である。共通テストの受験者数24名は少ない。地元国公立大学の情報を与えて受験のきっかけを作り、進学実績を中学生に示すことが必要ではないか。

意見6：専門学校においても、教員の指導力向上やICT教育の推進など、課題は高校と一致している。看護医療系への進学者が多いが、地元から通学すると、生活基盤がしっかりしていて効率的に学習できる。岐阜県内の人材育成を役割と考えているので、看護師を目指してもらえるように、1・2年生に向けて話す機会があれば協力したい。下呂市の医療人材不足が、すぐそこまで迫っているので、高校と連携を図りたい。

意見7：プレゼンテーションのスキルが年々上がっている。中津川・恵那地区では、高校生が企業とコラボしてふるさと納税の返礼品を開発し、地域に貢献している。もうワンランク上を目指し、挑戦して失敗するくらい背伸びした方が、生徒のためになる。平日のアルバイトは、家庭環境にもよるので、個人の判断に任せてはどうか。ダメと言うのではなく応援して目標をもたせれば、学業もアルバイトも頑張れる。

意見8：入学するときに確認できるとよかったのだが、普通科でないと推薦してもらえない大学があることを、進路決定の間際になって知った。希望する進路と現実との間にギャップが生じたときに、フォローしてもらえるとよい。

⇒学科によって選択できる大学が異なることを、学校説明会で中学生に周知したい。

意見9：プレゼンテーションが分かりやすかった。3年間学んできたことに対する自信に満ちていた。こうした発表を保護者に見せると、先が見通せる。ビジネス情報科でも地域との交流があることが分かった。総合的な探究の時間に対する生徒のアンケート評価が低い。答えのないテーマに向かわせるのは難しいが、課題を自分で見つけるのは楽しいことだと分からせてほしい。

意見10：発表の中で「お客に喜んでもらったことがうれしかった」という言葉を聞いて、ビジネスの本質を突いていると感じた。売り上げを伸ばすために、販売数を増やすよりも単価を上げる方向で頑張ってもらいたい。付加価値をどうつけるか考えると、地域とより深くつながっていく。教員では解決できないことを議題に出してもらえると、たとえ解決できなくても協議会としての意味が深まる。3年間のコロナ禍を経験した生徒の実態を知るために、直接コミュニケーションをとる場面がほしい。生徒を理解すれば、よりよい提言ができる。

意見11：高齢者を学校に招いた清風サロンのような催しを、土日に中学生や地域に向けて実施できないか。

⇒教員の負担、生徒の負担、金銭面、何を狙いとするかなど、クリアしなければならない部分がある。

6 会議のまとめ

ビジネス情報科の課題研究において、自ら課題を見つけて解決していく学習が実践されていることを、高く評価していただいた。今年度の学校の取組に対して、各委員から率直な意見や提言を得ることができたので、来年度の学校運営に反映していきたい。